

製品安全データシート

1. 製品等及び会社情報

1.1 製品の特定

製品名：オーバークリーンS 600g×6/CS

製品分類：排水管洗浄消臭剤

主な用途：排水管内部の洗浄

1.2 会社情報

会社名：横浜油脂工業株式会社

住所：〒220-0074 横浜市西区南浅間町1-1

担当部門：技術開発部 担当者：溝口康介

電話番号：045-311-4701 FAX番号：045-316-6451

緊急連絡先：総務部 連絡電話番号：045-311-4704

作成者：溝口康介

制定日：2009年5月8日

2. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

含有成分及び含有量

成分名・化学名	含有度Wt%	CAS No.	化審法No.	安衛法No.	PRTR法No.
水酸化ナトリウム	5.0未満	1310-73-2	(1)-140	319	—
水酸化カリウム	5.0未満	1310-58-3	(1)-369	316	—
オルソケイ酸ソーダ	50~70	非公開	非公開	—	—
過炭酸ソーダ	10~30	非公開	非公開	—	—
陰イオン界面活性剤	0.5~1.5	非公開	非公開	—	—
キレート剤	0~10	非公開	非公開	—	—

化審法：化学審査法官報告示整理番号

安衛法：労働安全衛生法 第57条の2 第1項 政令指定物質の政令番号

PRTR法：化学物質管理促進法官報告示整理番号

—： 該当しない

3. 危険有害性の要約

最も重要な危険有害性及び影響

人体への影響： 吸入・飲用不可。

本品の有害性は主に オルソケイ酸ソーダ、水酸化ナトリウム、水酸化カリウムに起因する。

目への接触・・・・・・・・ 刺激性有り。
失明する可能性が有る。

皮膚への接触・・・・・・・・ 刺激性有り。
炎症、ただれ、重度の薬傷等を生じる可能性が有る。

誤飲の場合・・・・・・・・ 刺激性有り。
消化器官に炎症を生じる可能性が有る。

吸入の場合・・・・・・・・ 呼吸器に刺激性が有る。

環境への影響： 現在のところ有用な情報なし

物理的及び
化学的危険有害性： 腐食性物質、酸化性物質
水溶液にした場合、アルミニウム、錫、亜鉛等の金属を腐食し可燃性ガス(水素)を発生する。
異物(分解を誘発・促進する金属類、還元性物質、予期せぬ雨水等)の混入、或いは外部からの熱によって分解を起こすことがある。分解時は酸素ガス、水(又は水蒸気)及び熱を発生する。熱がこもると分解が加速する。
酸素ガスは支燃性を有し、火災等の火勢を強めることがある。

4. 応急処置

目に入った場合： 誤って目に入った場合は、こすらずすぐに15分間以上流水でまぶたの裏まで洗い、本品持参の上、すみやかに医師の診断を受ける。コンタクトレンズを着用の場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗眼し続け、すみやかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合： 誤って皮膚に付着した場合は、直ちに多量の水で15分間以上洗い流す。異常がある場合は、医師の診断を受ける。(衣服にかかってしみ込んだ場合も同様の処置を行う)

飲み込んだ場合： 誤って飲み込んだ場合は、直ちに口をすすぎコップ1～2杯の水または牛乳を飲ませるなどの処置をし、無理に吐き出させないで、本品持参の上、医師の診断を受ける。

吸入した場合： 直ちに空気の新鮮な場所に移り、保温とともに安静にすること。呼吸が困難な場合、ネクタイ・ベルト・ウエストバンド等の衣類の締め付けを緩めて、マウス・マウス人工呼吸を行なうこと。気分が回復しない場合には、直ちに医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

製品自体に引火性なし

6. 漏出時の措置

漏出付近から着火源や可燃性のものを速やかに取り除く

少量の場合：必要に応じて保護衣を着用し、おがくず、土砂、ウエス、紙等を用いて吸着させて、空容器等に回収する。その後、漏出区域周辺を多量の水で洗い流す。洗浄した水等は、地面や排水溝等にそのまま流さない。

大量の場合：保護衣を着用し、土のう等で流出を防ぎ、ポンプ・杓子等で空容器に回収する。風上にて作業を行う。

河川や一般排水溝などに排出しないように注意する。

廃棄物は関連法令に基づいて処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意：

- ① 周辺での火気、スパーク、高温物の使用は避ける。
- ② 火気は近づけない。
- ③ 換気の良いところで使用し、容器は使用ごとに密栓する。
- ④ 蒸気及びミストを吸い込まない。
- ⑤ 多量に使用する場合、長時間使用する場合は、皮膚、目、顔を保護する適切な保護具（保護手袋、保護前掛け、保護マスク、ゴーグル等）を着用する。
- ⑥ 取り扱い後は手洗い、うがい、洗顔を十分に行う。作業衣等に付着した場合は着替える。

保管上の注意：

- ① 周辺での火気、スパーク、高温物と接触する場所は避ける。
 - ② 容器は密栓し、直射日光の当たる場所・40度以上になる所、水回りや湿度の高い所、凍結の恐れのある所を避け、風通しの良い冷暗所で保管する。
 - ③ 類の異なる危険物と同一の場所に貯蔵しない。
-

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない。

許容濃度：設定されていない。

設備対策：取り扱いは換気の良い所で行う。

保護具	目の保護具	保護眼鏡を使用する。
	呼吸保護具	防塵マスクを使用する。
	皮膚の保護具	保護手袋、保護前掛けを使用する。
	その他	特に必要としない。

9. 物理的及び化学的性質

外 観：白色粉末

pH(25℃, 10%水溶液)：13.0以上

嵩 比 重：0.63(代表値)

溶解性(10%水溶液)：白濁液体

10. 安定性及び反応性

引火点：なし(製品そのものは燃えないが、分解すると酸素ガスを発生し支燃性を示す。)

発火点：なし(製品そのものは燃えないが、分解すると酸素ガスを発生し支燃性を示す。)

粉塵爆発性：なし

安定性・反応性：単独では、通常取り扱い条件で安定であるが、熱や分解を促進する物質との接触によって分解する。吸湿や水濡れによっても分解が誘発、促進される。
分解時は酸素ガス・水(又は水蒸気)及び熱を発生する。熱がこもると分解が加速される。
弱い酸化性を有する

その他の危険性情報：特になし

11. 有害性情報(人についての症例、疫学的情報を含む)

組成物質の有害性及び暴露濃度基準

成分名・化学名	管理濃度	ACGIH	その他の有害性
水酸化ナトリウム		(TLV-STEL) 2mg/m ³	<p>●皮膚に触れた場合</p> <p>1、急激に局所を腐食し、腫れや発熱をおこす。</p> <p>2、低濃度溶液でも水分が蒸発することにより同様の症状をおこす。</p> <p>3、重度の皮膚熱傷。</p> <p>●眼に入った場合</p> <p>1、結膜や角膜が激しく侵され、視力低下や失明することがある。</p> <p>2、発赤、痛み、眼のかすみ、重度の熱傷。</p> <p>●吸入した場合</p> <p>1、粉じんやミストを吸入すると気管、肺などに炎症をおこす。</p> <p>2、消化器粘膜または深部組織を侵され、死亡することもある。</p> <p>●飲み込んだ場合</p> <p>1、口や喉および胃の灼熱感、嘔吐、下痢、虚脱。</p> <p>刺激性</p> <p>ラビット</p> <p>500mg/24H; SEVERE(皮膚)</p> <p>ラビット 400 μg; MILD(眼)</p> <p>ラビット 50 μg/24H; SEVERE(眼)</p> <p>ラビット 1mg/24H; SEVERE(眼)</p> <p>ラビット 1mg/30S</p> <p>rinse; SEVERE(眼)</p> <p>急性毒性</p> <p>(RTECS)</p> <p>●経皮毒性</p> <p>ラビット TCLo: 25pph</p> <p>変異原性</p> <p>染色体異常; ハムスター(生体外); 陽性</p>

水酸化カリウム	(TLV-STEL) 2mg/m3	<p>●皮膚に触れた場合 1、皮膚炎をおこし、激痛を伴う。 2、発赤、痛み、眼のかすみ、重度の熱傷。</p> <p>●眼に入った場合 1、激しい痛みをともない薬傷をおこす。 2、失明することもある。</p> <p>●吸入した場合 1、気道粘膜が侵され、気管支、肺等を刺激する。 2、口腔、消化器を侵し、激しい疼痛をおこす。</p> <p>●飲み込んだ場合 1、口内、のどおよび胃の灼熱感、嘔吐、下痢、虚脱。</p> <p>刺激性 ラビット 50mg/24H;SEVERE(皮膚) ラビット 1mg/24H Rinsed with water ;MODERATE(眼) モルモット 50mg/24H;SEVERE(皮膚) 急性毒性 (RTECS) 経口毒性 ラットLD50;273mg/kg 変異原性 染色体異常;ハムスター(生体外); 陽性 染色体異常;ラット;陽性</p>
オルソケイ酸ソーダ	—	<p>刺激性(皮膚) 1、皮膚に付着すると粘膜に炎症をおこす。</p> <p>刺激性(眼) 1、眼に入ると刺激作用がある。</p> <p>急性毒性 LD50経口;マウス;1000mg/kg (メタケイ酸ソーダ無水塩として)</p>

—： 設定されていない
皮膚腐食性：あり
刺激性(皮膚)：あり
刺激性(目)：あり

1 2. 環境影響情報

有用な情報なし。

1 3. 廃棄上の注意

内容液及び容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理する。

1 4. 輸送上の注意

取り扱い及び保管上の注意の項の一般注意に従う。

陸上輸送：法令に従って輸送すること。

海上輸送：船舶安全法の定めに従う。

航空輸送：航空安全法の定めに従う。

1 5. 適用法令

毒物及び劇物取締法：該当しない。

消防法：該当しない。

労働安全衛生法

危険物（引火性液体）：該当しない。

第57条の2 通知対象物質：該当する。

有機機則：該当しない。

化学物質管理促進法（PRTR）：該当しない。

1 6. その他の情報（引用文献等）

改訂第2版 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ

化学工業日報社

*注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。

取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。